

# 精神科急性期閉鎖病棟におけるSSTの効果と変化

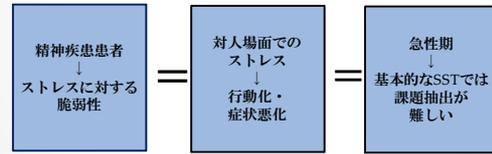
○山北 豊 星野 美栄子



## はじめに

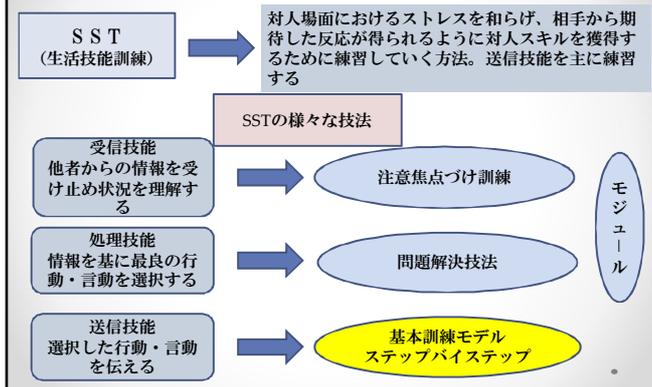
### \*急性期病棟

- ・主疾患⇒統合失調症・気分障害・アルコール依存症
- ・48床(保護室5床、男性17 女性27) 7%
- ・精神科急性期症状⇒陽性症状・強い興奮・混乱

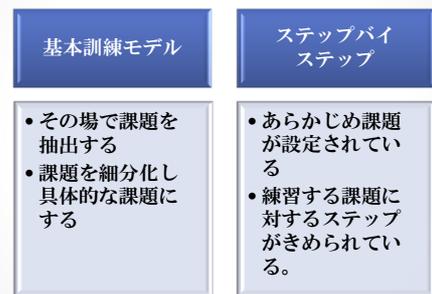


ステップバイステップ方式でのSSTを導入

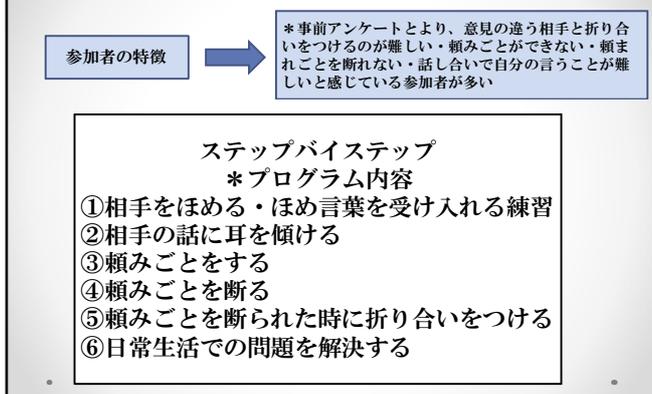
## SSTの概要



## SSTの概要

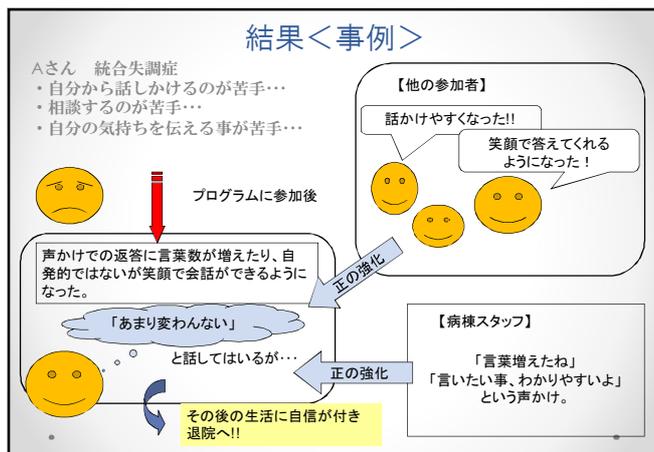
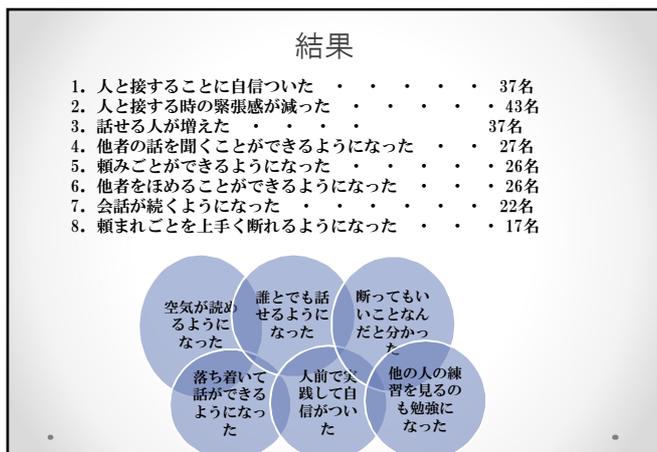


## SSTの概要



## 方法

- 対象者
  - 急性期病棟に入院した患者を対象とした。参加延べ人数は110名で主な診断は統合失調症や発達障害であった
- アンケート調査
  - プログラム終了後、参加後の自分の変化を評価するアンケート調査を実施した
- 検討方法
  - 開始して2年半が経過、そのうち回答が得られた81名の結果を検討の対象とした。加えて、事例を通してプログラムの有効性について検討した



### 考察

- 1、急性期病棟において、課題が設定されているステップバイステップ方式は有効な手段である可能性がある
- 2、プログラムに参加することでメンバー間での共感が生まれ、対人関係のスキル向上を図る手助けとなる。

### まとめ

- ・ SSTに継続して参加することで自分自身でも気づかないプラスへの変化がみられ、またメンバー間での交流の場でもあり対人スキルの向上の手助けとなる

(今後の課題)

- \*プログラムで得られた情報を日々の生活にどのように生かしていくか
- \*参加後の継続した関わりをどのようにしていくか